

彙報

一、評議員会の開催

二〇二二年四月二十三日(土)、第一回評議員会がオンライン(Zoom)で開催された。

○事務局代表に、千葉健、吉水千鶴子各氏が委嘱された。

○幹事に、高石憲明氏が委嘱された。

○二〇二二年年度の活動方針について審議された。

○筑波大学哲学・思想学会奨励賞の選考委員が選出された。

二〇二二年一〇月二十二日(土)、第二回評議員会がオンライン(Zoom)で開催された。

○院生幹事に、畑田晃佑、佐藤陽平の各氏が委嘱された。

○二〇二二年年度の筑波大学哲学・思想学会奨励賞は、該当なしとすることが承認され

た。

○『哲学・思想論叢』執筆規定の改定について審議された。

二、第四十三回学術大会の開催

筑波大学哲学・思想学会第四十三回大会は、二〇二二年十月二十二日(土)に、筑波大学人文社会学系棟A101(オンライン併用)で開催され、以下の研究発表、公開講演および総会が行われた。

〔研究発表〕

1 立正佼成会における人工知能活用の現状とその境界領域
橋本高志

2 仏教文献におけるマガの記述の変遷について
永井悠斗

3 明治期居士禅の源流

—今北洪川と奥宮慥斎—

蓮沼直應

4 何劭詩試論

—魏晋玄学から玄言詩へ—

和久 希

5 神道の哲学再考

—特に穢れ観念に注目して—

板東洋介

〔公開講演〕

仏教写本研究と

アシユヴァアゴーシャ再発見

佛敎大学教授 松田和信

〔総会〕

○活動報告 二〇二二年年度の活動報告が承認された。

○会計報告 高石憲明幹事より、別表の通り令和三年度会計報告(令和三年四月一日〜令和四年三月三十一日)がなされ、承認された。

三、編集委員会の開催

『哲学・思想論叢』第四一号の第一回編

集委員会が、五月二十五日(水)にオンライン(Zoom)で開催された。
 ○論文の依頼について審議された。
 ○第四一号の編集方針・日程等が検討された。

第二回編集委員会が、九月八日(木)にオンライン(Zoom)で開催された。

○第四十三回学術大会研究発表者の選考が行われた。

○大会プログラムについて検討された。
 第三回編集委員会が、十月五日(水)にオンライン(Zoom)で開催された。

○投稿論文の審査について検討された。
 第四回編集委員会が、十月二十六日(水)にオンライン(Zoom)で開催された。
 ○投稿論文が審査された。

四、会員異動

○新入会員、
 板東洋介、井上昂、近藤玲、佐藤陽平、
 向欣然、蔡睿、白瑪央金、楊柳鏡

○退会会員

河口伸、毛塚貴彦、小松加代子、竹内巧、
 長橋光、中山礼吉、北條孝祐、堀内俊郎、
 益子拓也、持田行雄、山田政信
 (五十音順敬称略)

(二〇二三年一月十一日 高石憲明 記)

『哲学・思想論叢』 第四十二号原稿募集

・原稿締切日
 九月最終水曜日の前日。
 二〇二三年九月二十六日(火)
 論文執筆規定をご参照の上、ご寄稿ください。

筑波大学哲学・思想学会令和3年度会計報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日) 会計担当幹事 高石憲明

(単位:円)

収 入		支 出	
前年度繰越金	949,373	機関誌作成費	363,880
学会付金	396,000	通信費・事務用品代	54,160
	132,000	大会開催費	50,880
		アルバイト代	10,000
		所属学会連合年会費	20,806
		次年度繰越金	855,647
計	1,355,373	計	1,355,373